

わたしたちが運ぶのは未来です

 運輸省



みなと しみず

発行所

第五港湾建設局

清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号

TEL 清水<0543>52-4146代

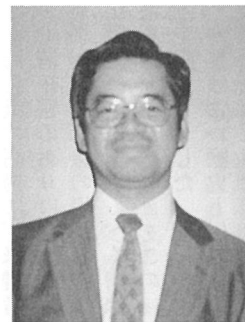


迎春

▲平成3年12月11日清水港に寄港した「飛鳥」(撮影石川芳厚係長)

年頭にあたって

所長 尾崎 正明



明けましておめでとうございます。

清水港工事事務所は昨年十月開設七十周年を迎えることができ、職員一同今年が新たなステップのスタートの年と考えております。

世界の情勢が大きく変化する中で、我が国の経済社会はもちろん運輸・物流分野においても変革が生じ、モーターシフト等の対応が求められております。

我々港湾行政に携わるものはこれらの多様なニーズや変化を的確にとらえ、積極的な施策を打ち出すとともに着実に実施していく必要があると考えています。

特にこれからの港湾整備は国際社会に通用する高度かつ効率的な物流体系の形成や地域の発展のための基盤の充実

はもちろんのこと、さらには「うるおい」や「ロマン」のある港づくり、即ちウォーターフロントづくりが重要であります。当事務所としても常にこのことを念頭に置き港湾整備を進めたいと考えています。

具体的には、第一に国際貿易港清水港の港湾計画を早期に策定する必要があります。現在清水港の将来像について各方面の意見を求め調整段階ですが、清水地域さらには静岡県全体の活性化・発展やロマンのある港づくりについて十分配慮した計画が肝要です。第二に御前崎港については、着実に整備が進展しておりますが、他の交通体系との関連も含めさらに地域の重要な核としての港湾整備を進めたいと考えています。第三に下田港については当地域の観光資源や周辺環境との調和を図りながら長期的視点にたった港湾整備を心がけたいと考えています。さらに県内各港のウォーターフロントづくりについても地方公共団体や地元関係者の方々との十分意見交換をしながら進めたいと思います。

本年も各位の御健勝を祈念するとともに、清水港工事事務所に対する益々の御支援御鞭撻をお願いし、年頭のごあいさつとさせていただきます。

『進歩自生志』

11.29 静岡総研
シンポジウム

未来の静岡を展望するシンポジウム「二十一世紀の扉を開く」(静岡総研主催)が十一月二十九日静岡ターミナルホテルで開かれ、総勢五〇〇名の一人とし、自称土木屋(望月)が出席して参りました。「基調講演」大和総研理事長宮崎勇さんが「二〇一〇年の世界と日本」と題して講

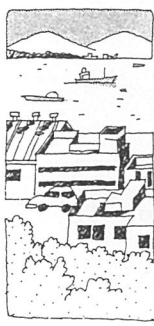
演し、一九九〇年代は転換期であり国境なき世界経済を設立するには教科書が無く、「多忙」な世の中となるとのことでした。

(パネルディスカッション)市岡修典立大助教授、伊藤元重東大助教授、坂本道雄日本オートメーション社長、望月照彦多摩大教授、四名のパネリ

ストが「二十一世紀の静岡を語る・味わいある都市づくり」をテーマに未来の静岡について語り、静岡総研理事長、竹内宏さんの「清水風」コーディネート的身近さが絶賛でした。

経済について「かけら」も(ジャンボ宝くじ以外)知りませんが、港湾土木という環境で働く者として、「異なる分野」が手を取り合って、「創造」していくべきではないかと痛感しました。

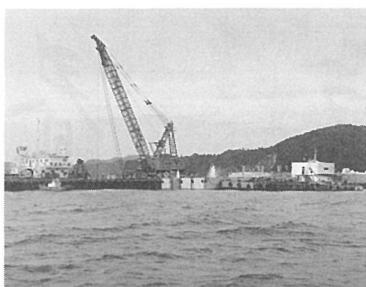
事務局、その他関係者の皆様ありがとうございました。(リポーター 工務課技官 望月徳雄)



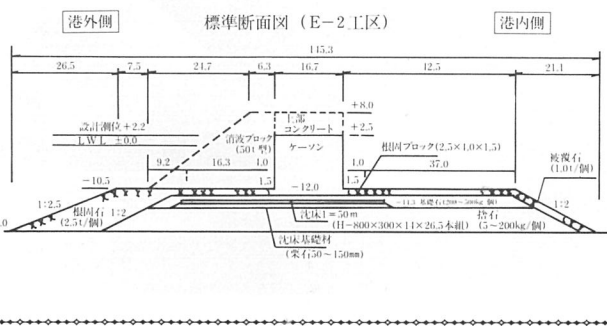
下田港防波堤 (E区)基礎・根固及び本体築造工事

下田港の防波堤は、避難港の整備拡充と津波対策への効果を目的に建設を行っており、昨年度まで、赤根島側の西防波堤計画延長五〇〇mのうち一二〇m(ケーソン六函分)の設置が終っています。築造工事の内容は、捨石を投入し、基礎マウンドを製整し、別件により製作したケーソン(二〇m×一九・七×一四、

五、WⅡ三、二〇〇t)を仮置場所から現地まで曳航し、据付を行うものであります。今年度は、二函の据付が終了し、現在は、根固石および被覆石を設置しているとあります。(金子工事係長)



▲ケーソン据付状況



新造豪華客船 「飛鳥」が寄港

日本で最大の新造客船「飛鳥」(二七、〇〇t)一面写真が昨年十二月十一日朝清水港に初入港した。

「飛鳥」は平成三年十月末に長崎で誕生したばかりの日本郵船の新鋭クルーズ客船。全長一九二・五m、幅二四・七m、二、三、四〇〇馬力で、二百九十二室の全客室が海側でバス付きのデラックス版。当日はあいにくの雨模様となったが、多数の市民が日の出ふ頭に出迎えた。

清水港を紹介するビデオ

企画製作中 三月末完

職員相互の情報交換あるいは港湾意識の高揚に、来清者・港湾視察のおりに、また、リクルート情報の提供として広範囲に活用を計るべく清水港を紹介するビデオをこのほど企画致しました。

内容は古い歴史と伝統を誇る当所直轄工事の施工記録を主体に職員の仕事ぶりや、お茶とみかんの輸出から自動車、オートバイへと移り変わった物流、あるいは三保・久能の自然の恵みを受けた生活ぶり

等です。霊峰富士を仰ぎ久能の山なみに囲まれた港町、題して「アラリ清水港」とし、約20分程度の編集を試みております。完成は三月末頃の予定です。(池谷第二工事係長)



▲ 奥津第一、第二埠頭から奥津川・薩埵峠を望む(昭和46年頃)

電話番号変更のご案内

当所では2月17日(月)より電話を直接担当課につながる「ダイレクトインライン方式」に改めます。お電話の際には次の番号を御利用くださいますようお願い申し上げます。

- 所長・次長 補償調整官・庶務課 〇五四三二一五二一四一四六
- 経理課 〇五四三二一五五〇〇五五
- 工務課 〇五四三一五二一四一四九
- FAX 〇五四三二一五二二〇七二



△1992年(平成4年)1月6日撮影(事務所玄関前にて)

明けまして
おめでと〜ございませ〜
本年もよろしくお願ひします。
清水港工事事務所職員一同

寄稿

―その1―
出会いと別れ

(8号起重機船50t吊)

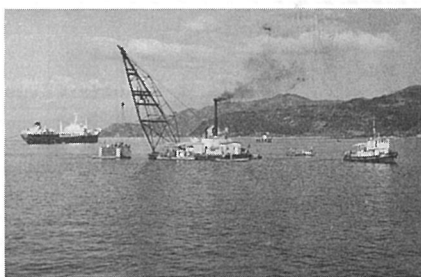
元職員 白石 良



8号との初対面は昭和24年8月頃であったと思う。黒い船体、休憩室兼宿直室は食事時乗員が着席すると歩くことも出来ぬ粗末さ、ボイラーの胴接手部には洩れがある。槽上部の滑車の注油に昇降すると作業衣はまっ黒となる。大変な船だと思つたものである。

最初の改造は袖師船溜りの方塊据付中に、わいた(雨をともなつた北東の突風が2、3時間吹荒れ大浪を起す)の来襲を受け避難途中に槽が2つに折れ倒れてしまった。固定式槽とする。

2度目はボイラーの新替及び燃料を石炭からB重油に改造した。操機長、操業長として乗り合せていた。たまらなく切ない別れを恥を忍んで……



▲稼働中の第8号起重機船(昭和28年頃)

台風が接近してくるので折戸湾内所定の荒天時係留ブイに係船し宿直員を残し帰宅する。台風情報を見これは直撃されると思い工事課長に電話し、宿直員の引揚げ許可を受けプリストマン宿直員共に帰宅させた。

夜半よりの暴風雨はすざましいものであった。朝、8号がない。どこに流され沈んだか、他船に被害を与えていないか通船を操縦しつつ何んとも云えぬ気持ちであった。

折戸湾内、日の出には見当らず岸に戻ると8号は興津だと云うことで現場に直行、第2埠頭埋立中の所にケーソンに寄りか、るように船体の半分を沈め乗り揚げていた。流失防止の係船索をとる。

槽、外板、甲板上のボイラー、機械類は異状なし。船底

の穴は不確認。工事課内は所長始め各課長、係長で満杯である。申訳ありません。あやまらんでいいと工事課長。

8号はそのまま、京浜港から代替船5号起重機船を借りると決定し数日後、京浜港に工事課長に同行し5号起重機船の取扱いを見聞する。後日8号は引揚げられ業者の作業船となる。切つなく又、あつけない別れであった。

始末書を出すよう指示があり、何を書いてよいか判らず宿直員引揚げより最後の係留までのありのま、を提出したものである。

人災がなかったこと、上司、先輩、仲間達の励まし其の後の乗員の信頼関係も変らなかつた。自分の都合の良い方に解釈し定年まで務めたが船乗りとして全つたく恥ずかしい話である。

後記

職名は事務所内職名と異なると思う、当時、先輩が在職中は職名変更はなかつた。

8号によって引ずつた係留アンカー8t、錨鎖は見付けることが出来なかつた。

(次号へ続く)

清水の風景 旧国鉄清水港線の可動橋 「巴川橋」撤去

旧国鉄清水港線の巴川橋の撤去工事が昨年十二月から始まり、懐かしい清水の風景が消えました。

旧清水港線は、昭和十九年七月に全線開通。戦時中から戦後にかけて清水港の発展とともに活躍したが五十九年三月いっぱいまで廃止となっていたもので、このほど、惜しまれながらも腐食も進んできていることから国鉄清算事業団によってこの三月までにはすべて撤去される。



▲今年3月いっぱいまで姿を消す巴川橋

お知らせ

清水港工事事務所70周年展
清水銀座戸田書店で開催

✓ 昨年は、当所の開設70周年を祝い記念式典等が行われ大変意義深い年でした。

このたび、戸田書店会長のご好意により、標記70周年展を左記のとおり開催することになりました。清水銀座へ買い物がてらご家族づれでお出かけの際、是非一度、当展をご覧下さい。

記

展示期間 平成四年一月十六日

(PM)二月十五日まで

(AM10時～PM8時但し水曜日はPM6時30分まで、休みなし)

場所 清水市銀座4の6

(株)戸田書店(一階)

展示内容 70周年記念出版物、記念品等多彩

(主催) 清水港工事事務所

以上

工場だより

御前崎工場

直販センターオープン

平成二年十二月二十四日、御前崎港内に御前崎漁業協同組合直営の直販センターがオープンしました。

御前崎港に水揚げされた、カツオ、サザエ、アワビ、伊勢エビ、イカといった鮮魚をはじめ、地場の農産物や加工品などを販売しています。

御前崎を訪れたときは、一度立ち寄ってみて下さい。営業時間は、午前九時から午後四時まで。定休日(は、毎週火曜日。(大野事務係長)



▲オープンした直販センター

下田工場

吉佐美宿舎(仮称)新築

10余年来要求していた下田工場の宿舎が、3月末を目途に完成します。

場所は、当下田工場より石廊崎方面約5kmの国道136号線寄り、木造平家建1棟2戸、2棟です。何事も新しいものがよいのですが、江戸時代の長屋の八つあん、熊さん、だけにはなりたくないですね。(夏目事務係長)

編集後記

明けましておめでとうございませう。

皆様のご協力のお陰で、広報「みなとみず」も誕生して2回目の正月を迎えました。

ところで、昨年は清水港工事事務所開設70周年の記念行事が行われ大変意義深い年でもありました。この70年の歩みも大正10年からの第一歩であったことを思うと、休みなく継続する一歩こそが伝統ある歴史を作

ることにつながることを今更ながら教えられます。

今は、ヨチヨチ歩きの「みなとみず」ですが、どうやら所期の目的も幾分なりとも果たせているようで、当然、いろいろな批評はあっても70歳の大人「清水港工事事務所」の支えとして多少なりともその役に立つことができればよしとして、また、今年も一生懸命歩みますのでよろしくお願ひします。(編集委員会)

清水港の動き

9月10日 工務・工事課長会議(名古屋)

11日 「飛鳥」入港(清水)

17日 清水港・みなと色彩計画策定委員会(清水)

27日 官庁御用納

4日 官庁御用始

8日 清水港港湾機関長会議(清水)

9日 相良ふるさと海岸

10日 整備調査幹事会(静岡)

10日 所長会(四日市)

18日 実施会議(名古屋)

25日 所長会議(名古屋)

28日 第2回通常検査(清水、御前崎、下田)

10日 清水港・みなと色彩計画策定委員会(清水)